

10835 21 de Mayo

DIRECCION:
USPALLATA 981
U. T. 23-7051, B. O.

EL "ARGENTIN DJIJO"

FRANQUEO PAGADO
CORREO ARGENTINO
TARIFA REDUCIDA
CONCESION 718
AÑO XV

OSAKA SHOSEN KAISHA
Av. Roque Saenz Peña 616 U. T. 33, AVENIDA 1051 - 1052 - 1053 - 3565
2º PISO COOPERATIVA CENTRAL 2047 BUENOS AIRES

大阪商船會社指定
三等乗船切符仲次所
大阪商船會社社客御送迎と就
ては懇切迅速に御便宜と御取計
申可候間御遠慮なく下詔へ
御用命賜度候
船脚用商
森川塩澤商店
PASSEO COLOM 470
U. T. 33-4171
U. T. 33-4808

●北米パナマ線由日本行「年十四回」横濱まで 四十七日 (A型)以上のすゝめいれす丸
●中米パナマ線由日本行「年十四回」横濱まで 四十七日 (B型)以上のすゝめいれす丸
●アフリカ線由日本行「毎月一回」門司まで 六十日 あるいは九十九日 あるいは九十九日 あるいは九十九日
●南米パナマ線由日本行「年十四回」横濱まで 四十七日 (C型)以上のすゝめいれす丸

乗船運賃	
船種	日本行
A型	米貨 四五〇円 特三(洋)一五七円
B型	米貨 四〇九円 特三(洋)一四六円
C型	米貨 三三七円 特三(洋)一四四円
南米船	全 三三七円 特三(洋)一四四円
南米船	全 三三七円 特三(洋)一四四円

●小兒運賃 旅券記載生年月に依り満十二歳未満「半額」、満七才未満「四分の一」満三才未満無賃、満四才以上亞國生れの方は「亞國旅券必要」
●乗船支拂 日本行運賃は全部米貨支拂です。一等は乗船切符買求め當日の換算率、二等は本船入港當日の換算率(何れも自由市場率)に依り運賃にてお拂ひ願ひます。一等は定額運賃(割)の出國税が掛ります。(二等は無税)
●歸國御手續 旅券面に日本領事の査証が要ります。三等客は乗船前乗船支拂の健康診断を受け下す。切符は本船入港當日から出帆前日迄發賣
●日本より御呼寄の便法當地にて乗船支拂あれば乗船券引換証差上させます。但し移民局發給入國許可証及日本領事館發給呼寄証明書持参下させ
●鐵道省乗車券發行 日本第一港から本船切符の上陸港迄鐵道省汽車乗換の協同便の代りに乗車券贈呈
●弊社内航線切符發行 弊社内航線寄港地を目的とする場合等内航線切符贈呈 (但し沖繩ハ參等五割引)

大阪商船

亞細亞時報

DIARIO JAPONES
Director: T. MIDZUNO
Redacción: USPALLATA 981
U. T. 23, Buen Orden 7051
BUENOS AIRES
TARIFA DE SUBSCRIPCION
Un mes \$ 2.-
Tres meses " 6.-
Seis meses " 12.-
Un año " 24.-

YAMASHITA LINE

FAR EAST-NEW YORK-SOUTH AMERICA SERVICE
AGENT
CHADWICK, WEIR & Cía.

25 DE MAYO 516 U. T. 31-0026-29

"K" LINE

KAWASAKI KISEN KAISHA Ltd.
KOBE, JAPAN
Representantes
J. E. TURNER & Co. S. A.
RECONQUISTA 325 • U. T. 31-3491-3

キリスト教青年ホーム
ペンシラン 定期又は一時的
聖書の研究 毎土曜日午後八
時より御來会自由
郵便物取次 奉仕致しませう
守屋保吉
Caseros 1983
U. T. 23-9872

Semillería EL COLONO
ABONOS :: HORMIGUICIDAS :: INSECTICIDAS
IMPLEMENTOS AGRICOLAS
SEMILLAS Y PLANTAS
J. S. GAGÓ
IMPORTACION DE SEMILLAS
EN GENERAL
HERRAMIENTAS PARA JARDINES
GENERAL HORNOS 58
U. T. 23 BUEN ORDEN 7101
BUENOS AIRES
PIDA CATALOGO GENERAL

バンコ
ムニシアル
競賣品
買へば
みんな安
くて良
物ばかり
AV. DE MAYO 1073

TALLER
MECANICO

de G. GONZALEZ

プランチヤ機
カルデーの
修繕其他

SAN JOSE 220

U. T. 38 - 5923

時計修繕
電話で御一報次第参上致します
市内カビルド街一七七八
電話(五二)〇九三三

守屋利夫

CABILDO 1178

U. T. 52 - 0933

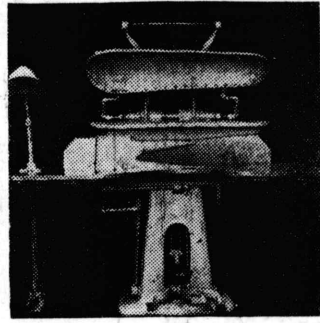
斎藤染色工場

設備完全
仕事入念

邦人間唯一の
染色工場

BELGRANO 3061

U. T. 45 - LORIA 5442



Av. La Plata 1416

U. T. 60 - 9421

新案
TBP
カルデーセント
リライガ・クエデヨ
のプランチヤ機
製造販賣修繕
高橋秀雄

自宅出張撮影
複写引伸し
荷書き、寫真でも御引受け致す
寫真師 佐藤貞則

SALTA 158
U. T. 37-3704

TOYOKEN

25 DE MAYO 356

U. T. 31 - 0739

東洋軒
料理部
純日本料理
折詰弁当
丼物一切種類
晝食
配達致し
相変らず
市引立を

Masajista Japonés

SEGUROLA 1992-6
U. T. 67-4591

日本式マッサージ鍼灸
リウマチス、神経痛、呼吸器病
胃腸病その他一切の疾病、幼
日本書道、西坂商店で
取次願ってゐます
山田忠重

GRAN PREMIO EXPOSICION DE LA
INDUSTRIA ARGENTINA 1983-84

BILLARES BRUNSWICK
BANDAS MONARCH
ULTIMA NOVEDAD "SNOOKER"

Solicite informas



Cia. Brunswick Sudamericana S. A.

1894 - CANGALLO - 1900
U. T. 47, Cuyo 3577 - Buenos Aires

MATSUYA HOTEL

TAGUARI 580
U. T. 34 - 1344

親切丁寧
顧客本意
浴室完備
まつや旅館
料理体面、井物一切
日本菓子製造致す
の会合に應じます

だるま亭
井物一品料理仕出し
すし、おぼろ、饅頭、煮出し
御婚札、御誕生の祝儀
御注文に應じます
松田清市

BOLIVAR 1556
U. T. 23 - 4032

"PLATA BRAUN" MARCA REGISTRADA



カフェエーバー
レストラント用の
メタル製品の
御用命は日本人間
に絶大の信用ある
ZANUS
目録の御注文に
應じます

BERNARDO BRAUN e HIJO

CORRIENTES 4349 U. T. 54, Darwin 4111

ALMACEN

NISHISAKA

AUSTRALIA 1101
U. T. 21-2915

醤油味噌
澤登香物 製造販賣
日本食料品輸入販賣
船中万應油
値段勉強配達迅速
西坂資太商店

Ernesto Coco

15 DE NOVIEMBRE 2335

U. T. 23 - 2835

ケロセン廉賣
永年日本人洗濯店
並に御家庭の
御最良を蒙つて居ります

領事館、銀行、船会社と近く
御乗船御下船の便
御下宿
御旅館
地方へ出立の際は是非御立寄願います
昭和館

25 DE MAYO 330

U. T. 81 - 5145

BUENOS AIRES

"KEROGAS"

Ing. F. STUCKLER

U. T. 51-3252 PACHECO 3260

最新型ケマドールレス及び
タンクレス・フレッシュオン
製作販賣
諸種ケマドール修繕・部分品
販賣・日本人間に多数顧客
在りし仕事は入念迅速電話
で御一報次第至急参上致します

TALLER GRAFICO

NIPPON

SANTIAGO DEL ESTERO 975

U. T. 23 - 7864

刷印版活文西

堂ンポツニ

種各他其、刺名簡封等便
寸寸上軟命用御拘不、少多

総 川 北

中滅撃を敵敗し畧攻を州徐に全完軍皇

萬歳の聲全城を震駭!! 陽光燦として輝く徐州

晴の徐州入城式

(東京二十日) 大本營陸軍部発表 我軍は九月十九日完全の徐州を攻取し、引續き敵軍を撃滅中なり。

(徐州二十日) 國民陣營の旗の徐州入城式は陽光燦として輝く二十日正午。部隊長以下一巻束の殊勲を擲つた渡辺大尉部隊を先頭に入城。萬歳の聲は徐州全城を震駭した。

徐州陥落後の大殲滅戦 敵軍を撃破各所を占領

(徐州十九日) 我軍は十九日未明王山東側の丘陵地帯に約一萬の敵軍を撃破し、敵軍二師團の後、大北進徐州周辺の平地に進つた。その大半を殲滅した。

(徐州十九日) 我軍は十九日正午徐州北方二里の蘆山を占領した。
(上海二十日) 我軍は中東路より徐州方面大王庄附近より進出し、北支の敵部隊は敵の後面を迂回、徐州宿遷街道の要衝に進軍し、二十日正午十時を占領し、徐州より敵軍の退却を断つた。
(北京廿日) 我軍は廿日夕刻浦東を占領した。

壯烈極はめし徐州攻畧情况 肉弾戦を演じつゝ市内占領

(徐州城外十九日) 上海野戦 其の南端を占領し、午前十時、南方より徐州進軍中の我軍は城内中央部に進軍し、敵軍は十九日午前六時、午前十一時、混乱に陥りつゝ敵軍は占領し、午前十一時、徐州市内を占領した。

(東京二十日) 本軍は九月十九日完全の徐州を攻取し、引續き敵軍を撃滅中なり。此の功績は、我軍の士氣を大いに鼓舞し、敵軍の士氣を大いに挫き、我軍の勝利は、我々の勝利である。

聖戦完結迫唯前進あるのみ 畑最高指揮官戦勝の喜びを語る

(上海二十日) 世界新聞は、畑最高指揮官は、戦勝の喜びを語る。我軍は、聖戦を完結させるまで、前進を続ける。我々の勝利は、我々の勝利である。

敵軍廿余個師氣息奄々! 李宗仁逃亡指揮系統崩壊

(北京二十日) 徐州附近で我軍は敵軍の指揮系統を崩壊させ、敵軍の士氣を大いに挫き、我軍の勝利は、我々の勝利である。

開院參謀長宮殿下 寺内畑両指揮官へ御祝電

(東京廿日) 開院參謀長宮殿下、寺内畑両指揮官へ御祝電。我軍の勝利は、我々の勝利である。

その勝利は、我々の勝利である。我軍は、聖戦を完結させるまで、前進を続ける。我々の勝利は、我々の勝利である。

商賣は宣傳から
美麗なる扇、飾、ホ
スター等、年末用贈答品
御予約致します。

安東商会
市田デパート五三三三三
U三三三(ア)二二九六

アフリカ丸
五月二十三日入港
全 二十九日出帆

アエノスアイレス丸
六月六日入港
全 十三日出帆

大阪商船

次期前進
我軍は、聖戦を完結させるまで、前進を続ける。我々の勝利は、我々の勝利である。

占領
我軍は、聖戦を完結させるまで、前進を続ける。我々の勝利は、我々の勝利である。

徐州大要塞陥落の一瞬前 鮮血と硝煙、阿鼻叫喚の巷

(徐州城外十九日) 午前九時餘に、四面圍撃は徐州西側...

(徐州城外十九日) 徐州城壁に 陣地を進め我が機銃の先...

驚くべき漢口の防空施設

ソ聯製優秀高射砲機銃装置

米人技師が指導設計す

(上海十八日) 漢口の防空施設は、更に大本営の在る中心...

米國製軍用機

支那向け大量輸出

(サンペドロ十八日) 南下太平洋 岸サンペドロ口港に奇襲中の英...

徐州戦は世界の大事件

日本は此一戦で大局を決せん

仏國評論家の観測

(巴黎十八日) 評論家ジャン・フランソワは十八日「ジュール...

歐洲の政情不安は氣を取り 徐州の戦況は北支、中支に亘る...

帝都に流れる血色

徐州城一面攻陥の快報

(東京十九日) 徐州城一面攻陥の快報は十九日午前早く...

前線の記者團銃撃奮戦

(北京廿日) 軍部の前線は従軍した新 南通信記者團も報連戦の重要任務...

航研機の世界レコード

F.A.I. 公認要求に決定

(東京十九日) 世界航空史に巨 魁のレコードを樹立した航...

が中心となり 木更津、銚子 本陣、平塚の...

天機殊の外御麗し

徐州大勝を告げる祝賀サイン

(東京廿日)徐州の大勝を告げる祝賀サインは二十日朝...

これぞ漢口も愈々露にふる

逃げる蔣介石追撃は止めぬ

(東京廿日)徐州陥落せる大漢軍の勢況は刻々...

おめでたう

今朝(五月二十日)のラブレター... 徐州の地をめぐり...

一日一題

ある「徐州は遠く落ちまはる」と云う。ヤアおめでたう。...

非常の重鎮の地であり従つて軍事上は重要な地であつた。...

片山誠意 九兵衛出陣中の大作... 松尾一兵衛 出陣中の力作...

明日開く洋画展

出陣九兵衛入洛... 岩佐八三郎 四兵衛出陣 風景画...

御招待

洋画展覧会開催は付... 開期 五月廿二日より廿九日迄...

入院

片山誠意 九兵衛出陣中の大作... 松尾一兵衛 出陣中の力作...

旅行

吉川六郎氏は去る十日... 八日高田にてセント...

片山誠意

九兵衛出陣中の大作... 松尾一兵衛 出陣中の力作...

非常時日の花見風景

緊張の各大臣に春の訪れ 戦の野に花をたぬけぬ武士の備け

聖園では冬の支度くた余念ひぬれ、日本では未だ春の無縁向、さて自支事変開始の、数島の大和の園、ではどんが花見をせしむ、今、此の戦園の春の風景を近頃の新聞紙に探つて見ると、...

廣日、日曜、大安マ、三月三日、花の日は、帝室は新時下らしい花見行祭のアルバムを展覧して、...

其節首相はとりまは此の日は、廣まより日、議會の渡り、風邪に出で神武天皇祭の御成の参列と御遠慮甲上げて、...

永井逋相、電方案の通過する、近頃と張り続けり列の時の、病風中、病める夏脚大臣の心臓と春のエレキを、...

米内海相は、三月三日、午後一時、海軍省の全海軍少佐、...

明日の作戦、は取りつ、おの海相は春の句に五尺の、...

広田外相、講義の別邸に春の、...

非常時政府の総元帥廣田首相、...

飲後の春の花見、三日の東京、...

素張りの風景、...

石神井公園、...

健康は成るの基 健康は健康に 健康者は健康に 健康者は健康に 健康者は健康に

トク船乗組員募集 甲夜部員、機部員、...

南米水産株式会社 市内デフエンス街一九九七

CORNEJO KÖSTER MEDICO CIRUTANO DE HOSPITAL RAMOS MEJIA AV. DE MAYO 1334, 1º PISO D U.T. 39-2239 (DE 17 A 20 HORAS)

五月号雑誌到着! キング、講談倶楽部、富士、...

日本産敷 建築
文化住宅
家具製造修理其他の御用命を願ひ
大工指物師 山本 玄
Av. del TEJAR 4817
U. T. 741 (Florida) 3150

ラキリアム・ブ
ン
ソニキベルド商會
代理人
グイセンテ
シアリエーロ

和 優良球根
各種販賣
入稿直

RIVADAVIA 5871
U. T. 63-9982

歯科医療の
御相談に應じます

日本歯科
医学士 山本実雄

應接時間 午前八時~午後十時
市内ニントレリオス街九七三
番二階ロートニ三一。五四二

MEDICINAL
NEWS

28 - Suipacha - 28

○ 淋病梅毒 治療代は全治後頂きます
○ 肺結核新療法 月十ペソからの便あり
○ 婦人科。電氣治療科
○ X光線科 (各科専門医十名)
診察料三ペソ (午前九時~十二時
午後三時~八時
日曜祭日は午前中)

SEMILLERIA
Juan Calé & Cia.

CASA MATRIZ
125 - PUEYRREDON - 123
U. T. 47, CUYO 0065 y GUYO 0066
COOP. TEL. 1137, OESTE

Sucursal N.º 1: CORRIENTES 3175
U. T. 62, Mitre 1954-C T. 323, Oeste

Sucursal N.º 2: RIVADAVIA 2425
U. T. 47 Cuyo 8098-C T. 1105, Centr

琉球三味線教授
土曜日午後二時より
初等科
日曜日中等科

安里電業
MOMPOX 1646
U. T. 23, B. Orden 8424

JUGUETERIA
TORRO
SARMIENTO 540
U. T. 34 - Defensa, 1687

SASTRERIA "TORRO"
SARMIENTO 654
U. T. 35, Libertad 1392

品質本位
仕立入念
八十五ペソ
より各種
トロー
高等
洋服店

この広告掲載は
御持参の方には
一刻引致します



玩具卸買求むは
廉價・在庫品豊富の
トロー玩具店で
日本製玩具あり
御申込次第型録送員

東キコ科 國分鉄藏
医学士
左記に於て歯科医療の
御相談に應じます

ドクトルエドアルド・キンタニヤ歯科医院
市内ニドラス街六九二、四階
デパルタメントN 電話三三三三三〇

Franz y Fritz
DANCING
348 PARANA 350

一階に新設致しました美しい
冬の花園の御披露致します

グリエテは毎日午後六時半より
小ルンチ附コペティン一ペソ
樂團は有名なカナロのオルケスタ
夜の部 西班牙及び各國の藝術の粹を
集めたグリエテを二回開催
百名の麗人ダンサー!!
卅名の藝術家登場!!
日本人のモーションがサービズ致します

式ンマフオ舊新
賣安大機ヤチンラフ



SALTA 431
U. T. 38, Mayo 0999

機ンマフオ るな飲無全完の古中
すまし致賣販てに拂支件條好安格
(可もてに紙手の文本文日は文註御のりよ方地)

ホロン式プランチヤ機
並にカルテラの修繕取付
一切廉價に引受けます
ホロン會社
指定機械師 トリビオ・ゴメズ

CHACABUCO 896 TELEFONO PARTICULAR
U. T. 23, B. ORDEN 4564
U. T. 34, DEFENSA 1192

御旅館 双葉
御下宿 双葉
和洋食月極めに應じます
皆様の御愛顧を願ひます

尾崎幸千代
PATRICIOS 96
U. T. 23 (B. Orden) 5735

CLINICA MEDICA CANGALLO

CALLE CANGALLO 1542

Atendida personalmente por su Director

Dr. A. GODEL

Médico Cirujano

最新式獨乙療法
 淋病—根治療法
 梅毒—六〇六号、九一四号
 婦人病、心臟、胃腸、各料専門
 肺腎臟神經系統
 ◎日本人方には初診無料
 X光線、デアテルミ、血液検査
 診察日：自午前九時 至 午後三時
 自午後三時 至 九時
 日曜、祭日は午前中

無痛齒抜 ニベソ
 セメント充填五ベソ
 金冠 拾五ベソ
 金入歯 拾五ベソ
 総入歯 六拾五ベソ
 診察時間
 午前九時より
 午後八時まで

DR. E. BULJEVICH

BDO. DE IRIGOYEN 1404
 U. T. 23 (B. O.) 0279

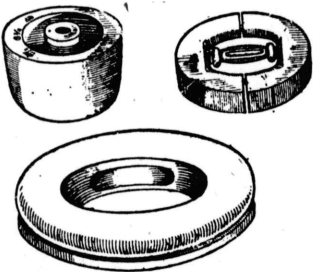
GRAN TALLER "EL ASAHI"

de MIYAZONO Hnos.

Casa Matriz:
 CHARCAS 1873 - U. T. 44, JUNCAL 4366
 Sucursales:
 BME. MITRE 2511 - U. T. 47, CUYO 7159
 RIVADAVIA 5202 - U. T. 60, Caballito 4738
 BUENOS AIRES
 CONSTITUCION 148 - U. T. S. Fernando 46
 SAN FERNANDO, (F. C. C. A.)

LUIS GORI Hnos.

LIMA 1029 U. T. 23-2897



帽子木型製造工場

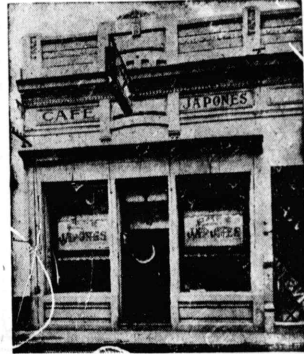
チントリアの仕事の
 上り下りは型の善悪
 に依ります。
 仕事を上手にこなす
 には良い型を使はね
 ばなりません。
 弊工場はマデラブラ
 マデラコラ、アルカ
 マデラ、型等流行型
 のり型を最新型
 の御注文にも應じます。

CAFE JAPONES

de K. UCHINO

LAS HERAS 667

TUCUMAN



ツクマン市
 内野喜吉

KEROFIX

DEL Sr. ALEMAN (MARTIN)

M. SEITZ & Cia.

Talleres:
 CHARCAS 4511
 U. T. 71-9998

ブランドヤ機
 カルテラ用のケマ
 ドレス、デグロセン
 製作販売修繕取
 付交換引受り。
 当方はカーサボル
 カン以未御馴染の
 独り人で日本人間に
 数多の顧客を有し
 仕事は入念迅速、電
 話で御一報次第至
 急参上致します。

CAFE Y CERVECERIA LA "SATUMA"

有水武二
 久松純雄
 竹内武義
 加藤吉隆

General HORNOS 54

U. T. 23 - 0526

BUENOS AIRES

Casa MALIS

DEFENSA 717
 U. T. (33) 4382

カフエー店
 就労用衣類の
 御用命は弊店へ
 サコネリコ ミン
 黒チャレコ ミン
 黒サコ ハン
 上等至ききタッ



Doctor Julio Lutzki

A L S I N A 2 4 7 4
 U. T. 47 - 5329

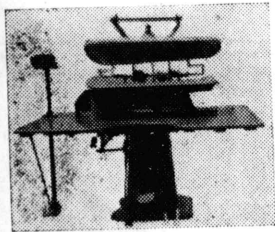
診察 午後五時 至 八時
 第二心臓肺臓喘息
 療養所 呼吸器
 胃腸 師

FRANCISCO SANTERO

EX-MECANICOS Cta. HOFFMAN

Galle DANEL 1438

U. T. 45-0294



ブランドヤ機並にセン
 トリアーガ製作販賣

かまぼこの
 御注文は村武へ
 原料精選
 味は良くて
 値段は安い
 御入用の節は電話で
 Marcos Paz 1941 U. T. 67-4833 FLORESTA



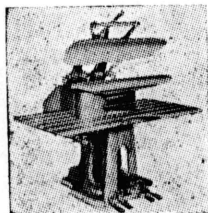
GRAN
 MERCERIA
 Y BAZAR

Casa fundada en el año 1923
 PRIMERA Y UNICA CASA JAPONESA
 Últimas Novedades Para la Moda
 Creaciones en Artículos Japoneses

SE ATIENDEN PEDIDOS TELEFONICOS

優良品
 廉価販賣
 呉服、木物、小間物
 雑貨、最新流行婦
 人用品及び御家庭
 用品一切小賣店
 同胞に限り割引
 公認代理人
 林甚次郎

CARLOS PELLEGRINI 1153
 U. T. 41, Plaza 1306



Máquinas Hoffman

BELGRANO 525

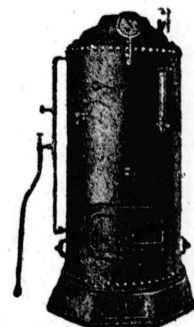
U. T. 34 - 1497

BUENOS AIRES

オフマン式ブランドヤ機及
 同会社製附屋品販賣店は武
 市に於ては当店一軒のみです

TALLER MECANICO A. MENDEZ

CALLE VERA 737 - U. T. DARWIN 1108



新品中古大型小型各種
 カルテラアパホル販賣

Semana de Acontecimientos

Una semana de acontecimientos ha sido la que hoy termina, para la observación nuestra: la comedia de Ginebra, la ruptura de relaciones entre México y Gran Bretaña y la victoria japonesa en la famosa línea Lung hai en Shangtung.

La comedia de la Liga de las Naciones, tan ligeramente comentada por la prensa mundial, no puede ser pasada en silencio por parte nuestra. La actitud de Gran Bretaña y el procedimiento de la Liga de las Naciones han puesto de manifiesto cuán lejos están de la sinceridad esa potencia y esa entidad que pretenden obrar con justicia y en nombre de la humanidad, títulos dados por ellos mismos, que sólo sirven de parangón con los “mariscales y generales” de los caudillos bandoleros del ejército chino.

La Gran Bretaña, por conveniencia política ha resuelto reconocer la conquista italiana de Etiopía, y como es la que manda en la Liga de las Naciones reunidas en Ginebra, ha conseguido lo que ella necesita. Todas las actitudes de Gran Bretaña relacionadas con el Extremo Oriente y con el Japón han sido, en los últimos años, de la naturaleza de la comedia de Ginebra que comentamos. Sin honradez, sin principio y sin decoro; sólo ha querido salvar sus intereses aún a costa de su prestigio. Su ayuda a los militares comunistas bandoleros, venta de armamentos, balas dum-dum, gases venenosos, a los chinos, etc., mientras que por medio de las agencias noticiosas protege a los chinos, atacando al Japón, sin razón ni motivo.

Si por lealtad, Gran Bretaña ha comprendido el error de su procedimiento anterior en la Liga, le correspondía ante todo, confesar su ignorancia y su error para con el Japón y debió reconocer la independencia de Manchukuo antes que reconocer la anexión de Etiopía a Italia.

La ruptura de relaciones de México con Gran Bretaña, señala otro hecho de Gran Bretaña que no pudo ser oculto eternamente en México. El abuso de su potencia, la intervención en asuntos de otro país independiente, que tiene que desaparecer.

La nueva derrota de los ejércitos chinos, que tanto éstos como los observadores militares extranjeros que, según informaciones propagadas por las agencias noticiosas conocidas que están dirigidas por gentes que desearían que Japón no triunfara en su obra estabilizadora del Oriente, pretendieron creer o hacer creer a los incautos, que no sucedería, ha confirmado rotundamente la afirmación japonesa. La demagogia de los chinos, ayudadas por los interesados del occidente, no hará cambiar la situación del Japón.

La corrección, sinceridad y la nobleza de propósitos que animan al Japón no pueden ser quebradas, menos detenidas, por nadie.

El Japón cumplirá su misión de poner orden en el Extremo Oriente, que es la condición vital para su existencia digna como potencia de primer orden y para salvar de la catástrofe del comunismo a toda la humanidad.

Incluya un crucero alrededor del mundo en sus próximas vacaciones

•
Cuando vaya usted a Europa, hágalo pasando por el Oriente

•
PASAJES MUY VENTAJOSOS

•
Para informes dirigirse a:

Osaka Shosen Kaisha

Diagonal Roque Sáenz Peña 616. - 2.º piso

Régimen del Comercio Exterior Argentino

“La Prensa”, con su principio invariable de librecambista, insistió en su editorial del 14 del corriente, con toda claridad, sobre la falacia del régimen reinante que, siendo erróneo, perjudica al país.

El criterio con que lo condena es el mismo que yo había demostrado con pruebas extraídas de la estadística oficial de comercio, en un artículo publicado en VERITAS en 1935, con el título de “Falacia del lema: ‘Comprar a quien nos compra’”. “La Prensa”, con su autoridad, dice: “No es un secreto para nadie que el mantenimiento de la fiscalización de cambios sirve la política proteccionista del comercio dirigido y se propone como desideratum, o cosa así, la igualación de las importaciones y exportaciones con referencia a cada país extranjero, según la fórmula equivocada de comprar a quien nos compra. La consecuencia de tal régimen tiene que ser una disminución del comercio exterior, en los intercambios bilaterales y en el total”.

Refiérese “La Prensa”, después, al sistema complicado de la estadística de comercio que es notorio y el defecto de la evaluación de los productos de importación basada sobre la tarifa fijada por ley en el año 1906, que no está de acuerdo con los precios actuales. A este respecto, menciona el caso del comercio argentino-japonés, y demuestra la disparidad que existen entre las estadísticas argentinas y japonesas que por razones de distancia por un lado y por otra de la diferencia grande que existen en los precios del Japón y la tarifa de Aduana de la Argentina, lo hace más notable.

La supresión del control de cambio y la reorganización fundamental de la estadística del comercio exterior son, como dice “La Prensa”, dos grandes problemas que no pueden escapar al ojo avizor del estadista.

La Argentina ha menester, como lo he dicho reiteradamente en las columnas de “La Razón”, una política económica nacional que no tiene aún fijada. Sin determinar esa política, no puede ni compilar la tarifa de aduana cuya modificación está encomendada al estudio de una comisión, no se atina qué industria debe proteger, no ofrece seguridad a empresas que tienen invertido capitales en ciertas industrias que realmente merecen ser protegidas. La situación así indecisa, perjudica grandemente al desarrollo del comercio exportador del país que, por otra parte, es la llave de la grandeza argentina.

A mi juicio, lo primero que debe hacerse es la organización de estudios racionales combinando los esfuerzos de los industriales y comerciales, para plantear una política económica argentina, que deberá sancionar el Congreso. Esta base para una nación es más importante quizá que el mero deseo o manifestación de ver al país próspero que reflejan en muchos de los mensajes y discursos que, después de leído y dicho, no dejan rastro alguno, ni nadie se ocupa de ello.

Más la organización del comercio, así como el fomento de la industria nacional, de que se ocupó el presidente Ortiz, que esta vez serán sometidos los planos al Congreso, ya que dijo que sería organizada la Dirección de Industria y Comercio, vale decir un Ministerio de Comercio e Industria, cuya necesidad proclamara yo en 1935 en Veritas.

G. YOSHIO SHINYA.

LA AVIACION MILITAR ACTUA

SHANGHAI, 17. — Ante la noticia de la retirada del ejército chino de Su-Hsien una escuadrilla

aérea japonesa al mando del Teniente Maeshima salió inmediatamente en su persecución alcanzándolo en el derrotero de LingPi exterminándolo. Enseguida la misma escuadrilla siguió rumbo al lago Hugtse en donde hundió varios centenares de barquillos del ejército chino, volviéndose a su base sin haber sufrido ninguna pérdida.

ACTOS VANDALICOS DEL EJERCITO CHINO

SHANGHAI, 17. — Según informaciones recibidas en el círculo extranjero de ésta, las guerrillas preliminares de los japoneses aplastan paulatinamente las posiciones ocupadas por las tropas chinas. Estas tropas chinas, parecen estar dispuestas a destruir el dique del Río Amarillo. No se sabe aun exactamente en qué dirección dirigirán los chinos las aguas de este río, pero con todo si llega a realizar la destrucción del dique en Junio o Julio, es decir, en la época de las grandes crecidas de éste, los daños que deberán soportar los pueblos agrícolas de ambas márgenes del río serán aún mucho mayores que los de la misma guerra. Sufrirán de hambre, evidentemente, varios millones de chinos que habitan esta región. No podemos callarnos la boca ante una actitud tan horriblemente anti-humanitaria y cruel del ejército chino.

SE PREPARO EL EJERCITO PARA TOMAR SUCHOW

SHANGHAI, 17. — En la segunda estación ferroviaria a partir de Suchow, aparecieron varias unidades del ejército japonés, quienes comenzaron la recia ofensiva contra la batería china de un monte situado al oeste de la línea defensora de Suchow.

SHANGHAI, 17. — Los soldados que acaban de ser derrotados en Pa-Wong, entran precipitadamente en la ciudad fortificada de Suchow provocando un desorden sin precedente, siendo caótica la situación de la ciudad. Desde Pa-Wong hasta Suchow dista sólo algo más de 10 kms.

SHANGHAI, 17. — Ante la poderosa presión cada vez más ofensiva del ejército japonés el comandante en jefe del ejército chino, General Li-Sung, huyó de Suchow y se sabe que ha llegado a Kweitch.

HA CAIDO YA LA IMPORTANTE CIUDAD DE SUCHOW

Después de librar una de las mayores batallas, las fuerzas japonesas han entrado victoriosas en Suchow, corazón del sistema ferroviario del centro de China y llave de la defensa de la capital provisional, Hankow. Triunfo japonés este, que permitirá a las tropas avanzar decidida y definitivamente hacia Hankow, corazón militar de la China revolucionaria.

H. KATO

Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería

HERRERA 2097 y 2111 U. T. 21-1841

PAGINA DE ACTUALIDADES

Noticias de Montevideo

DECLARACIONES DEL MINISTRO UCHIYAMA A LOS PERIODISTAS

Entrevistado por los periodistas, a su llegada a Montevideo, manifestó con su característica franqueza, lo siguiente, según fiel publicación de "El Diario":

MOTIVO DE SU VIAJE—

—El motivo esencial de su viaje a Montevideo, señor ministro?

—Presentar credenciales. Mañana debo ser recibido por el ministro de Relaciones Exteriores y tal vez pasado por el señor Presidente de la República, doctor Gabriel Terra.

—Tiene usted planes concretos a desarrollar?

—Naturalmente, — nos contestó. — Pero no podría referirlos de manera detallada porque un ministro tiene que estar siempre atento por la naturaleza de sus cometidos, a todo aquello que pueda raducirse en beneficio para la nación que representamos.

EL INTERCAMBIO ENTRE EL URUGUAY Y EL JAPON—

—Desde luego que le preocupará la intensificación del intercambio, algo detenido desde hace varios meses...

—Claro que sí. Lo que yo deseo y lo desea vivamente mi gobierno, es que tome forma concreta el tratado que hemos suscrito con el Uruguay. Lo aprobó la Cámara de Diputados, pero continúa detenido en el Senado sin que haya podido advertir las causas. Ese tratado que es del tipo corriente, tendrá la virtud de "ordenar" nuestro comercio con el Uruguay y viceversa. Comprendo que el simple tratado no basta y que es necesario complementarlo con acuerdos sobre divisas. Pero eso vendría después. Lo previo es el tratado que, sobre todo y primordialmente marca una norma, un principio, bajo el cual deben desarrollarse todas las actividades capaces de dar impulso al intercambio. Nosotros precisamos del Uruguay y ustedes precisan de nosotros, recalco el ministro Uchiyama.

—Puede ser exacto. Pero, ¿a qué atribuye usted la enorme disminución experimentada en las compras de Japón al Uruguay?

—Pues muy sencillamente al hecho siguiente: a que nosotros compramos siempre a quien nos vende mejor y más barato. Buscamos en el terreno comercial lo que nadie desprecia: la conveniencia. Sostenemos y nos afirmamos cada vez más en el concepto del libre comercio, lo que no nos impide asignar cuotas cuando comprobamos que es en esos países, aparentemente favorecidos, donde encontramos lo que nos interesa.

—De todas maneras y dentro de estas directivas, Japón entiende que es de necesidad regular el intercambio con el Uruguay? — inquirimos del ministro de Japón.

—Sin ninguna duda. Pueden afirmarlo así y pueden afirmar, también, que en eso me empeñaré de fondo. Deberían procurar una solución y no



Horas de entretenimiento de los soldados japoneses. Les acompañan mujeres chinas pescadoras con "coverjones". Es muy típico y tradicional usar los coverjones para la pesca en China y Japón.



Haré muchos viajes a Montevideo para procurar la vigencia del tratado porque, como usted sabrá, nos dijo, la legación seguirá estando radicada en la Argentina.

LA GUERRA CON CHINA—

Afable y aménisimo en su conversación, el ministro Uchiyama nos fué llevando a otros temas encontrando la mejor disposición para cambiar impresiones con toda naturalidad como si, en realidad, no percibiéramos que estábamos frente a un diplomático y de categoría.

—La guerra con China es una cuestión de tiempo. Nosotros tenemos un norte, es decir, un objetivo y lo vamos alcanzando en la medida de nuestros deseos. Lo que yo no comprendo es cómo el gobierno de China no se da cuenta de que está soportando un a situación que se le hace cada vez más insostenible. Falta serenidad para juzgar el problema encerrarse en una política que les está resultando como a la vista está, tan equivocada.

Y entró en detalles: —Véase, sinó —agregó—, al punto que nos hacía cuentas apoyando las yemas de sus dedos entrecruzados. Tenemos las ciudades más importantes de China en nuestro poder, sus pulmones. Contamos, igualmente, con los puertos mejores. Más aún. En cuanto a territorio conquistado ya alcanza una extensión superior al territorio de Alemania y Francia unidas. Y todo en diez meses. ¿Qué se puede esperar con la lucha?

Y después de referirse a otros aspectos del problema internacional, el ministro Uchiyama abarcó en su conversación otros temas de no menor interés que los precedentemente esbozados.

UNA GRAN EXPOSICION INTERNACIONAL—

—Mire usted cómo piensa y cómo actúa Japón. En 1938, la guerra con China. Pues bien; de aquí a dos años y celebrando los 2600 años de constitución del Imperio, se realizará en Tokio una gran Exposición Internacional la primera de su categoría que se lleva a cabo en Oriente. Durante seis meses, de Marzo a Agosto. De Setiembre a Octubre, la Olimpiada. Juzgue usted con estos elementos sobre la admirable potencia de Japón; potencia integral porque abarca todo, cultura intelectual, cultura física, fortaleza económica, comercial e industrial, etc.. En Junio del año en curso vendrá al Plata una misión especial con el cometido de explicar con detención el alcance de esa gran exposición para la que, como es natural, fué invitado el Uruguay. Ya tendrán oportunidad ustedes de comprender con esos elementos de juicio a la vista, lo que Japón quiere que sea la referida Exposición.

Mire usted, amigo cronista. Yo creo, como di-

plomático, que la prensa cuando no lo es, lo puede ser todo. Sin su apoyo no se consigue nada o se consigue muy poco, infinitamente menos que lo que buscamos. Eso es lo que yo entiendo para que advierta con el gusto y el interés que yo he de vincularme al periodismo. Mi legación está abierta de par en par a los fines de servirla y estas manos amigas se le extendo le confirmarán a usted cuán sinceros son mis votos por que la prensa estimule el acercamiento que deseo cada vez más efectivo de este país con Japón.

TRATADO URUGUAYO-JAPONES

Egún informaciones fidedignas, el gobierno del Presidente Terra, cuyo mandato terminará en breve, está haciendo gestiones para que el Senado apruebe de una vez el tratado de Comercio con el Japón, que le urge ratificar, para facilitar la marcha de un acuerdo comercial entre ambos países.

ACTIVIDAD CULTURAL

El Agente de la K. B. S. de Tokio, señor G. Yoshio Shniya, actualmente en ésta, visitando instituciones culturales, ha hecho arreglos con la Radio Carve — la voz del aire — para la difusión de informaciones y música del Japón.

CHIANG-KAI-SHEK ESTABLECE UN GOBIERNO EN EL SUR OESTE

SINANG, 17. — Chiang-Kai-Shek estableció escandalosamente un falso gobierno en el extremo suroeste de la provincia de Shantung. Sin embargo, ante la caída de Tsaochow, situada a 60 kms. al Norte de este gobierno, huyó precipitadamente a un pueblo de la provincia de Kiang-Nang, abandonando su gobierno, pero no el tesoro público que se llevó íntegramente.

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores catúes que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abriglantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

Japón y la situación internacional en Asia Oriental

Por el BARON SEINOSUKE GOH

Durante muchos años, la política nacional del Japón ha sido un firme e inquebrantable esfuerzo por establecer el equilibrio en el Extremo Oriente. Ella estuvo y está empeñada en conseguir el desarrollo económico y cultural de esa parte del Asia, contribuyendo en esa forma a la paz del mundo. En consecuencia, la política está basada en esos principios y sigue esa ruta. Breve y someramente, "el firme e inquebrantable esfuerzo" significa en esencia que Japón intentará la hazaña de lograr una co-existencia y co-prosperidad entre ella, China y demás pueblos del Asia Oriental, mediante el mutuo conocimiento y coordinación, consciente de que podrá elevar el nivel cultural y económico de esas regiones del Asia, sobre la base de: Amistad y Apoyo, y construir un Asia Oriental, rejuvenecida y no avejentada por los países de Europa y América. Este es el gran ideal que guía la política nacional. No significa en ningún momento que Japón implica en su plan un deseo de monopolio o de ambición egoísta.

Que tal ideal, no puede lograrse sólo por las armas, no necesita ser afirmado. Por tal razón, los japoneses han estado haciendo grandes esfuerzos por perfeccionar y disciplinar la combinación del poder nacional en base del poder económico, cultural, científico y técnico; y sobre todo esto trata de promover la amistad en el Asia Oriental y estabilizar y normalizar su situación. Los esfuerzos llevados a cabo por el Japón y los sacrificios que le ha costado, son aún pequeños, dada la magnitud de su ideal.

Los esfuerzos constantes realizados por el Japón para mantener la paz en el Oriente durante los últimos 30 años, despertaron finalmente a los 30 millones de habitantes de Manchuria y Mongolia, para que vieran en el desgobernado que los tenía el régimen de los Chang, en esas regiones, Manchuria, era en verdad una provincia destruida por luchas intestinas. Los asuntos alcanzaron al pueblo, por la mala administración del poderoso Chang y su hijo, toda especie de presiones se ejercían, y a esto se añadieron, inundaciones sequías y otras calamidades naturales, arrojaron a la población a la más completa miseria. Esta situación culminó con el establecimiento del Manchukuo en Marzo de 1932. Un notable progreso se señala en ese estado desde su fundación; se ha preocupado por su perfeccionamiento interno y de sus condiciones del exterior, en diversos terrenos, en su esfuerzo por llegar a ser un moderno participante en el concierto de las naciones. El mantiene sus puertas abiertas y un principio de equidad y ha demostrado sinceridad en sus actuaciones de hoy. Su modo de ser ayuda en forma efectiva a la pacificación y mantenimiento de la paz no sólo en oriente, sino en el mundo. Este hecho no necesita alegaciones especiales, siendo como es, hecho evidente. Es natural que la situación internacional en Oriente comienza a adelantar en dirección a la autonomía del Manchukuo, cuya apariencia parece resultar orientadora. De otro lado, China, que está llamada a compartir la responsabilidad de pacificar, con ese estado, aún no ha entendido bien esa su situación. Sobre estimando la fuerza de la nación y desestimando sus delicadas complicaciones internas, China notoriamente abusó de las relaciones internacionales, y esto culminó con el incidente que siguió al choque en Lukowkiao. Es realmente doloroso que, debido a la falta de fé de China en el restablecimiento de la paz, la situación ha obligado al Japón a responder al plan de China, de arrastrar a la Nación a una guerra.

Desdichadamente, la situación está tomando caracteres peores, porque Gran Bretaña y otras potencias europeas, y Americanas, por tener grandes intereses en Oriente, equivocan sus juicios al estudiar la amplitud de la política japonesa en esta emergencia, como así también la tendencia autonomista para la perseveración de la paz en Extremo Oriente, tendencia que ha ido ganando fuerza desde el establecimiento del Manchukuo. Esta actitud de ellos niega magnanimidad, e indica que ellos juzgan con excesiva suspicacia a la conducta japonesa. Todo esto está mezclándose enormemente con las relaciones políticas y comerciales. La mayoría de estas potencias ha creído en la exagerada y a veces increíble propaganda china. Estos los lleva a menudo, a denunciar acciones japonesas, sin antes averiguar la verdad. Mas aún, los productos japoneses, sufren boicots, y sus transacciones financieras son desvalorizadas, sólo para demostrar la desaprobación por la acción Japonesa en China. Cuanto ocurre en esos países es realmente deplorabile.

Las relaciones internacionales recientes son, intrincadas y complicadas. Algunas potencias siguen una política extremadamente nacionalista, que se para a una nación de otra, mientras que otras empujan sin exclusivismo y propia política para forzarla a desarrollarse en desmedro de la propia de otros lugares. En las relaciones económicas, la industria protegida está imperando y en consecuencia surgen y se multiplican los obstáculos a lo importado o extranjero. Naciones adelantadas tienen fuentes naturales e industrias derivadas, propias. Pero, solo con el intercambio de esos productos puede mantenerse el principio de "VIVIR Y DEJAR VIVIR". Es verdad que existe la rivalidad, en la misma clase de industrias, pero es imposible que cada país pueda desarrollar el total de industrias para su total abastecimiento, excluyendo a todas las demás. Esto sería desconocer la dependencia de la economía internacional. Visto desde el amplio aspecto de la economía universal, las esperanzas y expectativas de las potencias son totalmente fingidas. Es de desear sinceramente que quienes dirigen las acciones de varias naciones, se den cuenta rápidamente de la necesidad de levantar barreras del exclusivismo que entre ellos prevalece, ayudando al mejoramiento económico internacional y estimando el bienestar de los hombres. De donde puede deducirse que su presión económica en contra del Japón, relacionándolo con el incidente chino hace mucho más daño que bien. Solo por la comprensión, y no por medio de la presión equivocada, podrán las potencias restaurar la paz en un mundo convulsionado.

La rápida restauración de la economía internacional y el libre comercio es sinceramente deseado por el Japón. Su política actual está basada en tales ideas. Como resultado de la celeridad de la acción de las tropas nuestras, Nanking, capital de China, ha sido tomada y, este hecho ha reducido al antiguo régimen nacional chino, a un mero régimen provincial. Como resultado directo, el Gobierno Provisional de la República China, fué establecido en el Norte de China y, más aún, en varias partes de China Central, se han organizado comisiones autónomas de Perseveración de la Paz.

Aún todas estas organizaciones no han llegado a una estructura administrativa perfecta, en el caos que prevalece después de estos incidentes, pero están encauzados para desarrollarse y lle-

gar a un régimen perfecto, en nombre y realidad, llenando sus cometidos: observar las obligaciones internacionales existentes y corregir los tradicionales defectos sociales de China, conduciendo hacia la reforma de su administración interna y desarrollando sus recursos industriales, hasta lograr una China reconstruida en un Estado moderno, digno. Japón no escatimará esfuerzos para asistir a China en sus necesidades de ayuda financiera, técnica o personal.

Como con frecuencia lo declarara el Gobierno del Japón al resto del mundo, Japón respetará los derechos e intereses de China. No tiene ningún deseo ni intención de fomentar sus planes de emprenderlo necesario para la construcción de China, en un nuevo pie de desarrollo e industrialización, basado en la exclusión de los extranjeros y el promover a nuestros propios intereses. En síntesis, el que suscribe cree que es de importancia y urgencia para nosotros, el pedir la comprensión de Europa y América, para poder realizar el objetivo del Japón, de conseguir una construcción debida de China y el desarrollo de sus fuentes de la industria para la estabilización de las condiciones políticas y económicas en China, nuestra, es de esperarse, buena vecina.

NOTA: El Barón Sinosuke Goh es una figura de relieve de los círculos financieros del Japón. Presidente del Nippon Keizai Renmeikai, fué nombrado miembro del Gabinete de Consejeros que fué organizado por el primer ministro.

Educación en el Japón: ESCUELAS TECNICAS

Por Violeta Shinya.

La enseñanza media en el Japón, puede dividirse en: Escuelas Secundarias Ordinarias, y Escuelas Técnicas.

La Escuela Técnica se estableció con el objeto de dar instrucción, cultura y disciplina moral a aquellos que desean llegar a la vida práctica. El carácter de dichas escuelas depende de la naturaleza especial de la localidad; es decir que se condicionan al ambiente o medio social.

Hoy se encuentran en el Japón, escuelas técnicas de: agricultura, comercio, industria, marina mercante, etc., etc. Los cursos de estos establecimientos oscilan entre dos y cinco años. Debe tenerse presente que en Japón, las escuelas elementales, tienen de seis a ocho años; pues bien, aquellos establecimientos que admiten, mediante examen, a alumnos de un sexto grado, tienen de dos a cinco años, y los que admiten a alumnos del octavo grado, tienen de dos a cuatro años. En total armonizan con el progreso y desarrollo de la industria japonesa, estas escuelas se han desenvuelto con el carácter y programa excelentes, pues se ajustan al grado actual de adelantos.

En ese mismo compás de progreso, también se ha ido aumentando su número. Tiene hoy 1069 establecimientos de este orden, en los cuales hay inscriptos 342.914 alumnos. Es, exactamente el doble de las escuelas secundarias comunes. Si uno comienza a considerar el plan de estudios, llegaría a la conclusión de que falta uniformidad. Aquí esto quizá no se toleraría aún, mas, aquellos establecimientos, ubicados en sitios diversos, ofrecen al educando lo que más le conviene, según el lugar donde éste viva. Allí está la causa y la razón de la disparidad. Los libros de texto, también son

Sastrería Japonesa

Fundada en el año 1916

de S. Katayama

PIEDRAS 572

U. T. 33-5452

KOKUSAI BUNKA SHINKOKAI

Sociedad de Fomento de Cultura Internacional

TOKIO -- JAPON

Agente en Buenos Aires: G. Yoshio Shinya

Facilita gratuitamente toda clase de informaciones culturales relacionadas con el Japón. Atiende personalmente todos los días hábiles, menos sábados de 16 a 18 horas en la secretaría del Instituto Cultural Argentino-Japonés.

Museo Social Argentino, Viamonte 1435.

BODAS DE DIAMANTE DE UN ESTABLECIMIENTO EDUCACIONAL

El Colegio Nacional de Buenos Aires, cumple el 75 aniversario de su fundación. Funciona donde estaba el famoso Colegio de San Carlos, que se levantara en los días de la Colonia. Sucedió el Colegio Seminario y de Ciencias Morales. Así, pues, desde que los jesuitas comenzaron a enseñar latín y Humanidades, hasta nuestros días, en ese lugar de Buenos Aires, ha habido un colegio. Desde 1863, en que, bajo la presidencia de Mitre, se reorganizara la enseñanza secundaria, con el nombre de Colegio Nacional de Buenos Aires, cumple su misión ese templo de la enseñanza, en que, generaciones gloriosas han recibido instrucción. Cuenta hoy, con un edificio amplio y moderno, donde millares de alumnos reciben su lección de aprender y de disciplina, prepara a los bachilleres

diversos, pero aquellos, de las materias fundamentales, requieren la aprobación del gobierno. Es que en Japón se ha logrado, quizá fácilmente, por la idiosincrasia del pueblo, formar una conciencia nacional en el educando, desde su primer paso por las aulas. Sería realmente una dicha, que nuestros niños, los que concurren a nuestras aulas, que deben ser crisol de argentinismo, aprendieran por la prédica inteligente y eficaz de los educadores, ese respeto a sí mismos que engendraría el correcto actuar y donaría entonces, el futuro ciudadano, consciente y orgulloso de obrar con corrección, respetando al suelo en que vive, y viendo en sus símbolos grandeza futura.

que luego perfeccionarán sus estudios con las disciplinas que las distintas escuelas de la Universidad de Buenos Aires, brinda.

Hoy, a las 17.45 horas se realiza un acto conmemorativo al cual concurrirán altas personalidades.

LLEGO A JAPON EL Dr. VICTORIO FRANCESCHINI

TOKIO, 20. — Ha llegado a esta capital, de Buenos Aires, el Dr. Franceschini, primer universitario argentino que estudiará la Cultura Japonesa, becado por el Instituto Internacional de Estudiantes.

REALIZO SU REUNION MENSUAL EL INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES

Se realizó en el Museo Social Argentino la sesión mensual del Instituto Cultural Argentino-Japonés, resolviéndose abrir un concurso entre los estudiantes secundarios de los colegios nacionales, normales y comerciales de ensayos o monografías sobre el Japón, cuyo primer premio será una medalla de oro. Asimismo, se decidió la publicación de un folleto, con la intervención de la legación de aquel país, conteniendo las conferencias del curso de literatura japonesa, dictadas por su canciller, señor K. F. Furukawa.

Según disposiciones tomadas en la mencionada sesión, se realizará un ciclo de conferencias de cultura argentino-japonesa, tres de las cuales se reali-

zarán en el local del Museo Social Argentino y el resto en distintos lugares. Por último, se resolvió adquirir libros sobre el Japón en castellano, para aumentar la biblioteca, unos y necesarios para el curso de idioma, otros.

Hazaña de Aviación

NOTABLE VUELO DE UN AVION JAPONES

TOKIO, mayo 15 (United). — El avión de fabricación japonesa "Alas del Siglo", descendió en el aeródromo de Kisarazu a las 17.21, después de haber efectuado un vuelo de resistencia de 11.600 kilómetros, en circuito cerrado y sin reabastecimiento de combustible.

Se cree que este vuelo supera el "record" de distancia de Bossoutrot y Rossi. Los japoneses permanecieron en el aire 68 horas y 26 minutos.

El avión dió 26 vueltas sobre el circuito formado por Kisarazu, Croshi, Ota y Hiratsuka. El "Alas del Siglo" fué diseñado y construído con la dirección de los peritos de la sección de investigaciones de la universidad imperial, quienes desean construir un aparato capaz de dar la vuelta al mundo con tres reabastecimientos de combustible solamente.

El avión había sido sometido a prueba dos veces, pero en ambos casos se tropezó con dificultades debido a inconvenientes en los motores.

Los pilotos a quienes se acredita un nuevo "record" son el mayor Yuzo Fujita y el sargento mayor Fukujiro Tapahashi, secundados por el mecánico Sekine.

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904</p>	<p>T. NISHIZAWA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469-2981</p>	<p>F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS RIVADAVIA 1210 (4o. piso) U. T. 38 - 3239</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p>IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p>S. KAISEKI Representante de DAIDO BOEKI KAISHA LTD. Kobe, Japón Importación y Exportación VENEZUELA 1034 - BUENOS AIRES U. T. 38 - Mayo 7286</p>
<p>KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p>N. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p>S. ANDO y Cía. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p>NAOJI SAITO BUENOS AIRES BOEKI ASSENJO ROQUE S. PEÑA 616 - 7o PISO U. T. 33 - 1452</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-0978 CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 616. 7o. Piso. — U. T. 33, 1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Via nonte 1435. ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4993. COMPAÑIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2o Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 0251</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Esor. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	
<p>N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4081</p>	<p>TARO MURAI Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 468 - U. T. Retiro 31-3189</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 U. T. 33. 8256</p>	